

医療安全管理室の状況

(1) 年間目標

医師のインシデントレポート提出率を2%以上にすることを目指します。
医療安全研修会の参加者増加を目指します。

(2) 主な取り組み

【医療安全推進会議】

- 1) 臨床検査科での未到着検体確認を16時に実施とした。
- 2) 電子カルテにて最大量チェックがかからない薬剤19品目にワーニングを設定した。
- 3) 手術全症例にX線造影糸付ガーゼを使用することとした。
- 4) ヘパリンNa注5,000単位の容量入力単位をmLに統一した。
- 5) 電子カルテ入力時の患者取り違いについて医療局会で注意喚起を行った。
- 6) 麻薬仮渡伝票と麻薬施用報告書の取り違い防止のため用紙の運用を1枚に統一した。
- 7) 栄養科に情報が届かないフリー入力された食物アレルギー情報をDWHで抽出し、把握できるようにした。
- 8) 薬剤, 食事, 造影剤, その他アレルギーのコメント欄を非表示とした。

【医療安全担当者会】

- 1) 新生児出生時の第一標識装着方法手順を修正, 運用。
- 2) MR I担当看護師の白衣をポケットなしに変更した。(無意識の持ち込み防止のため)
- 3) 手術全症例にX線造影糸付ガーゼの使用, ガーゼカウント方法を検討・実施した。
- 4) 内服薬の配薬忘れ, 飲み忘れを減少させるための取り組み。次年度へ課題として継続。
- 5) 注射の患者間違い防止, 3点認証を徹底する取り組みの検討。次年度へ課題として継続。
- 6) 血管撮影室での患者確認方法の検討, 変更。放射線科撮影手順に追加した。
- 7) 経管栄養投与量間違い防止のため, 食事オーダー, ワークシートの食事欄の表記を変更した。
- 8) 日本医療機能評価機構からの医療安全情報を院内LANに掲示した。

(3) 活動実績

1) 会議・委員会開催実績

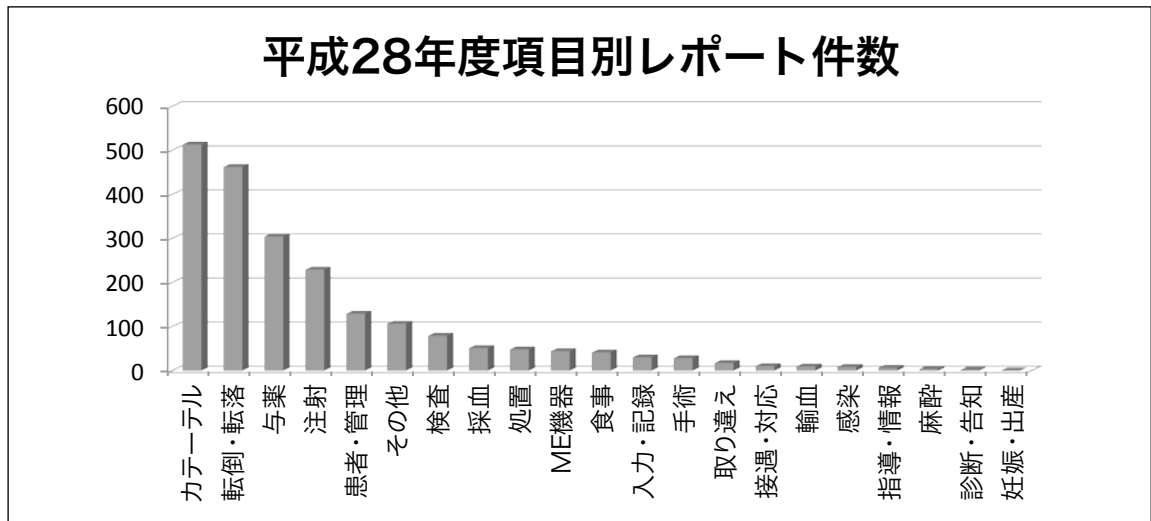
委員会等名	開催実績
医療安全推進会議	12回
医療安全担当者会	11回

2) 教育研修実績

参加人数

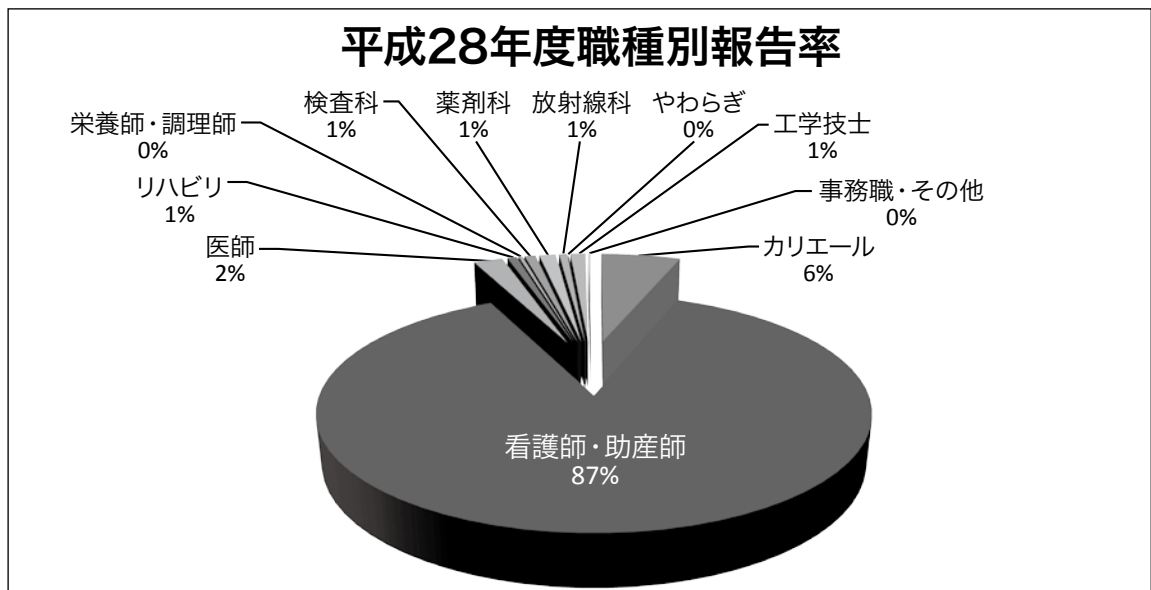
	内容	担当者・講演者	対象者	医師	看護師	その他
4月	・新規採用職員研修	医療安全管理者	新規採用職員	33		
	・新規採用看護師研修	医療安全管理者	新規採用看護師		32	
	・研修医医療安全研修会	医療安全管理室長 医療安全管理者	新規研修医	7		
6月	・富山県公的病院医療安全研究大会		全職員	2	12	10
10月	・「安全な輸血を行うための基礎知識」	臨床検査科 二正寺宏美技師	看護師	22	251	19
12月	・酸素デバイスの使用方法	臨床工学士 笹山 真一技師	全職員	36	258	130
3月	・「患者死亡時の対応手順と死亡診断書作成」	医療安全部主任部長	全職員	30	243	204
随時	職場復帰・新採用職員研修	医療安全管理者	看護師	11回開催		
5-9月	看護部教育研修(レベル別)	医療安全管理者	看護師	5回開催		

3) インシデントレポート報告
 ①項目別報告件数 (総計 2,139件)



カテーテル関連、転倒・転落、薬剤関連（注射・与薬）の3項目で約70%を占めている。転倒・転落やカテーテルの自己抜去は、高齢化や認知症などを背景に、入院という環境の変化が影響していると考えられる。そのため、高齢、認知症の患者も含め、個々に合わせた医療、看護の提供が必要とされる。注射・与薬については、多重業務、業務中断、思い込み、気持ちの焦り、確認不足など、様々な要因が関与している。マニュアルを遵守した確認行動を根付かせていきたい。

②職種別報告件数



看護師・助産師で87%。看護師は患者の身近で看護を行っているため、危険を意識する機会が多く、レポート報告率が高い。医師の提出は2%であった。他の職種からの報告を望む。

部署のリスクマネージャーと共に、報告されたインシデントを分析し、対応策を考え実施した。

個人の問題としてではなく、病院全体での取り組みとして考えることが、インシデントに対する気づきや感性を高める。チーム医療を行っていく中で、医師・看護師、その他の職種が連携し、患者さんの安全を守ることを第一に考えていかなければならないと考える。